

ザ・クインテッセンス／2012. 10月号

○～Everyhting Old is New Again～ 成功する根管形成とは？

根管形成のベーシックコンセプトを再考する (奥村秀樹)

* 現在、根管形成・根管充填のスタンダードと呼ばれるメソッドは存在せず、議論が繰り返されているのが現状である。特に現代的なファイルシステムが多種多様に存在している中、グライドパスの概念やクラウンダウン法の注意点、根管形成のコンセプトとしてシングルファイル・テクニックを紹介している。本稿は、日々の歯内療法のゴールを目指すためのきっかけになるのではないだろうか？

○ここまでやろう！ 歯内療法 根管洗浄と根管調製

(全6回・隔月連載) (香川剛正 田中利典 澤田則宏)

* 根管充填を行うべく適切な根管形態を付与するためには、ファイルを用いた根管の機械的拡大・清掃を行う。さらに細菌を含む有機質やスミヤー層などを除去すること、つまり化学的清掃が重要になる。根管洗浄剤には殺菌作用や有機質溶解作用、スミヤー層除去作用が求められ、臨床では NaClO 溶液や EDTA 液などがよく使われる。それらの薬液の効率のかつ安全な使い方を理論的な背景と作用機序を含めて具体的に解説している。

日本歯科評論／2012. 10月号

○特集／チームアプローチが支える患者との長い付き合い——長期症例から学ぶこと

(金子 至 山影俊一 他)

* 患者さんとは長い付き合いをしていきたいものです。いろいろと考え四苦八苦して治療してきた患者さんであればなおさらです。良い状態がずっと続けばいいのですが、その後の問題が出てくれば対応していかなければなりません。本特集は 20 年以上の経過を追い歯科医院のチームで対応してきた症例から何が得られたかを解説しています。どのようなことが起きどう対応してきたか、そしてどう患者さんから信頼獲得してきたか、必見です。

○高齢者を診る時の新たな視点——木を見て森を見ず、歯を見て口を見ず！？

第 10 回 歯科医師が胃瘻を考える時 (五島朋幸)

* 少し前、社会問題となった胃瘻。誤嚥性肺炎で入院したり、経口摂取できなくなると口腔ケアも摂食・嚥下のリハビリテーションも十分行われず、食べられない状態で検査を行い、「経口摂取不可」と判断され胃瘻を勧められるケースが多々あるとのこと。胃瘻の是非を問う前に我々歯科がもっとやるべきことがあるのではないかと筆者は問いかけています。これからの日本、そして歯科界の在り方に一石を投じる論文です。

デンタルダイヤモンド／2012. 10月号

○実践歯科ライブラリー：患者さんが通いたくなる未来型歯科医院

(王 豊禮 塩田剛太郎 廣田 健 他)

* 王先生が提唱されている未来型歯科医院である口腔内科の発想には「歯周病への抗菌薬物療法」「オゾンを用いた歯科医療」「口腔疾患への漢方薬物療法やサプリメントの有効利用」があります。今回、オゾン水とオゾンジェルの具体的な使用法とその効果について、歯科における漢方薬の使用法について記載しています。面白い内容で、一読をお勧めします。

○歯科臨床次の一手：

咬合器のここがわかれば使いこなせる～安全な側方ガイドと

作業側側方顎路角調節機構の必要性 (小出 馨他)

* 咬合器に求められる機能とその機能を発揮させるための使い方を説明し、顎関節に負担をかけない安全な咬合関係を持つ補綴物を作製できる調節機構を持つ咬合器について示しています。わずか 8 ページの中に咬合器と顎運動、顎関節について分かりやすく記載されています。調節性咬合器に興味のある先生、咬合にこだわりのある先生には必読の内容です。

歯界展望／2012. 10月号

○特集 骨移植材の臨床——わが国における現状と倫理的問題——

現在使用することができる骨移植材とその文献的考察 (鬼原英道)

大学病院でのインプラント臨床症例より (鬼原英道 丸尾勝一郎 飯島 伸 近藤尚知)

* 歯科臨床の現場では、さまざまな骨移植材が使用されている。それらの多くは海外で開発され、良好な結果が数多く報告されているにもかかわらず、わが国では承認を受けていないものもある。この骨移植材について、今月と来月の 2 ヶ月かけて、臨床・基礎の両面から解説している。欧米諸外国では、これらの骨移植材が古くから合法的に使用されている。しかしわが国では、歯科医師個人の裁量で使用されているので、その材料特性を熟知し、最良の結果を得られるように選択することが必要であることは自明である。本論文を、その参考にさせていただきたい。例えば、生物由来の材料はタンパク、ウイルスなどの感染の報告はないものの、可能性については常に考慮し、患者説明の必要はあると思われる。